

京田辺市複合型公共施設整備 基本計画検討懇話会 (第2回)

令和7(2025)年9月26日(金)

1

議題

施設でのアクティビティと施設規模

2

これまでの検討状況

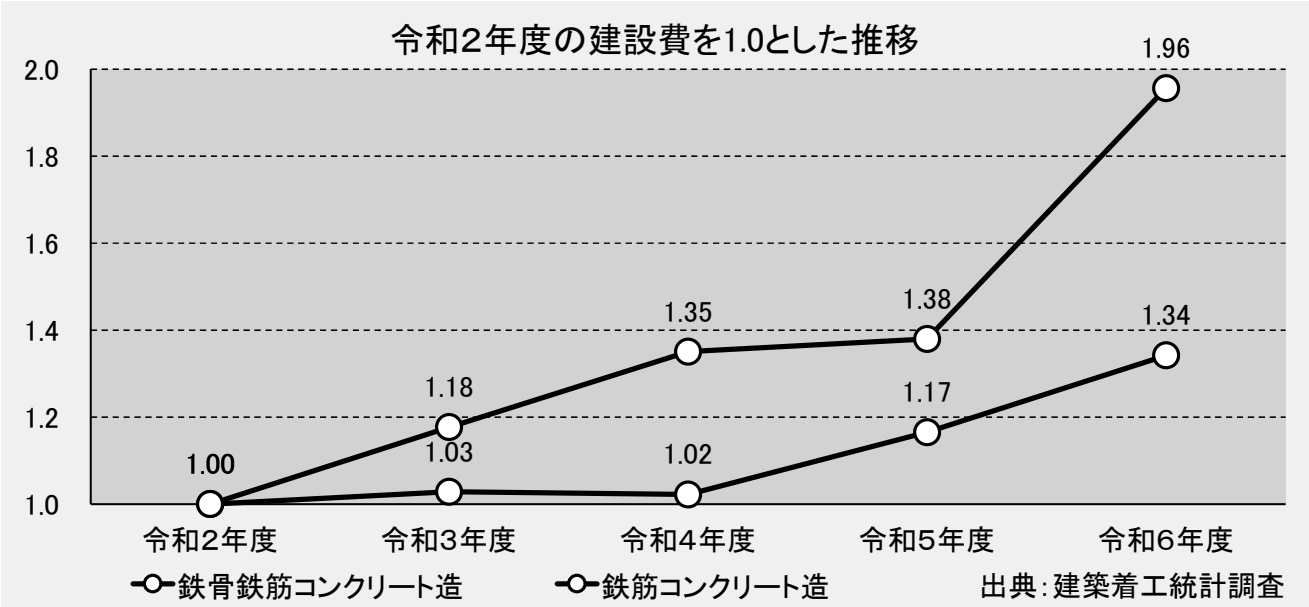
3

基本構想をベースとしたこれまでの検討案

項目	面積	備考
文化ホール	約2,200㎡	500席程度 ※前舞台(「どんちょう」より客席寄りの舞台)を使用した場合も400席を確保
公民館機能	約900㎡	現中央公民館と現中央図書館の会議室等諸室の合計:約850㎡
図書館機能	約2,500㎡	現中央図書館:約1,630㎡
共用機能	約2,600㎡	ロビー(ひろば)、階段、廊下、トイレ等
併設機能	約300㎡	こども支援機能、市民交流促進機能
管理機能	約1,500㎡	事務所、機械室等
延床面積	約10,000㎡	

4

近年の建設費の推移



建設費縮減のため施設規模の検討が必要

単純な施設規模の縮小ではなく、これまでの市民参画により積み上げてきた「やりたいこと(アクティビティ)」が実現できる施設規模を確保する

施設で想定されるアクティビティの整理

市民意見聴取の結果をふまえ、施設で想定されるアクティビティを抽出した。

アクティビティ	具体的な内容
観る・見る・聴く	コンサート、ライブ、ミュージカル、映画上映、展示
体験・参加する	発表会、各種講座、講演会、パーティ、ワークショップ、活動練習、マルシェ・フェスイベント、伝統文化、市民参加プログラム
つくる	陶芸、3Dプリンター、各種造形・工作、本格的な商品開発(飲食)
くつろぐ・集う	ふらっと自由に立ち寄る、夜も開いている、幅広い年代・多様な人との交流、ひとりでも・みんなでもくつろげる
知る・学ぶ・調べる	勉強、リモートワーク、京田辺を知る、出前講座
読む	紙の本を読む、読み聞かせ
相談する	子育て相談、カウンセリング
食べる	京田辺の野菜を食べる、こども・みんなの食堂
遊ぶ	落書き、ゲームする、こどもが自由に過ごせる、ひみつ基地
体を動かす	ミニ運動会、卓球、ボルダリング、健康に関する情報交流
働く	こどもが店をだす、就労支援、チャレンジショップ

施設で想定されるアクティビティの整理

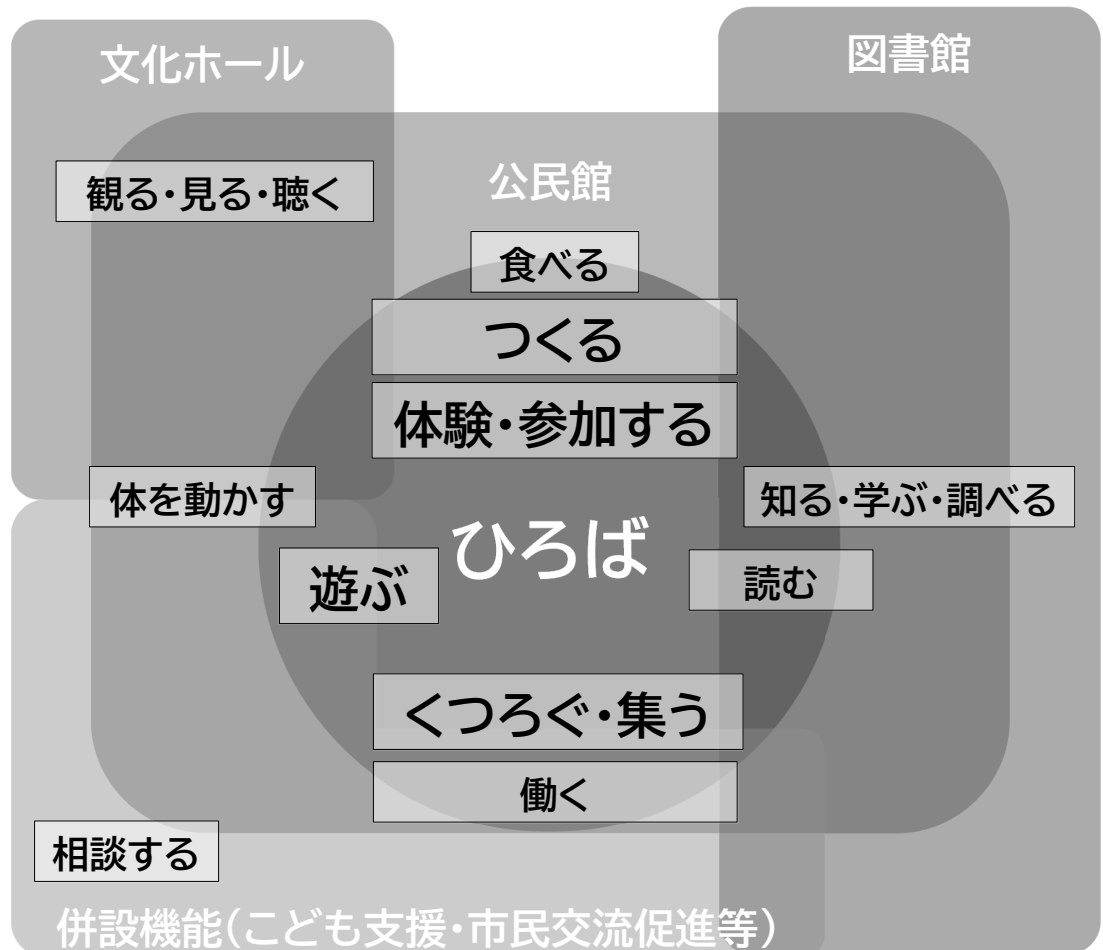
さらに、アクティビティが主に施設機能のどこで発生するかを整理した。

施設機能 アクティビティ	ホール	多目的室	創造支援 アトリエ	創造支援 練習	和室	調理室	図書館	併設機能 子育て支援 市民交流促進	ひろば
観る・見る・聴く	◎	○							○
体験・参加する	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		○
つくる	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎
くつろぐ・集う							○	○	◎
知る・学ぶ・調べる		◎	○	○	○	○	◎		○
読む							◎		○
相談する								◎	
食べる						○			◎
遊ぶ								◎	◎
体を動かす	○	○							◎
働く							○	○	○

7

施設で想定されるアクティビティの整理

施設機能と
アクティビティ
関連図



8

文化ホール機能

9

これまでの検討状況（文化ホール機能）

	内容
客席	・前舞台を使っても400席で利用できるように想定し、 500席程度を確保
	・親子等で鑑賞できる空間の確保や、車いす席を複数箇所に設置するなど、 多様なニーズに対応する客席を設置
	・実演芸術だけでなくさまざまな利用ニーズが増えることを見越して、客席は可動式とし、 平土間形式へと可変する空間とする
舞台	・多様な舞台芸術等に対応する プロセニウム形式とする
	・主舞台(演技エリア)は、 6間角(約10m×約12m)程度とする
	・オーケストラや吹奏楽等の生音演奏に適した空間となるよう、 音響反射板を設置 ・音響反射板内側の舞台の広さは、吹奏楽やオーケストラの使用を考慮
ホワイエ	・来場者が開演前、幕間に居心地よく過ごせる空間
	・ホールでのイベントがない時には共用部と一体となった 開かれた空間として利用
	・客用トイレは十分な数の便器を設け、車いすや乳幼児連れに対応したトイレの設置等、多様なニーズに配慮
バックヤード	・ 楽屋は必要最低限の諸室数とし、大人数での利用時には公民館機能の会議室等を楽屋として兼用
	・バックヤードエリアは舞台へアクセスしやすいことや、関係者以外がアクセスできないような動線・ゾーニングに考慮した位置に設置
	・出演者がくつろぐためのラウンジ・給湯室や出演者用のトイレ・シャワールームを設置

検討事項（文化ホール機能）

客席数

主な使い方を踏まえて客席数を決定

- ・ 市民活動の発表会
- ・ 小編成のクラシックコンサート・リサイタル
- ・ 文化祭
- ・ 社会教育事業

ホワイエ

ホワイエは、文化ホールが使用されていない時は利用されないため、「重ね使い」を検討

11

文化ホールの使い方と客席数の関係

客席数と演目特性

基本構想

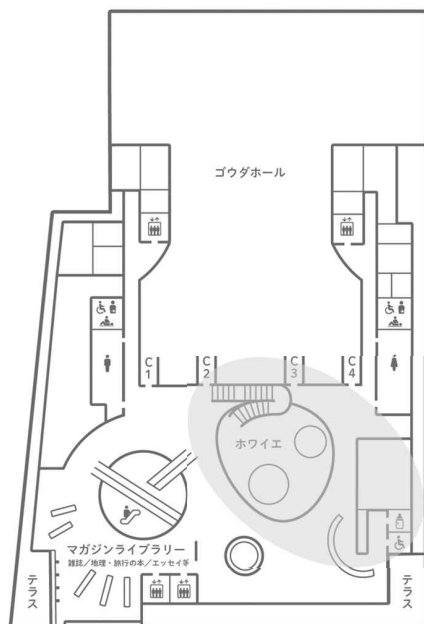
	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1600	
視覚上の識別度	舞台に立つ主演者非常に細かい表情まで識別可能			細かい表情や細かな動作が識別できる			身振り手振りによる大きな表現が識別できる					
聴覚上の識別度	ささやきによる伝達可能 演劇的語り言葉による伝達可能					歌等による大きな声の発声法が必要						
客席階数	1階で充分対応できる			1～2階層				2～3階層				
規模別の 演目適正				創作オペラ・オペレッタ・室内オペラ				グランドオペラ				
				モダンバレエ・ダンス・舞踊				ミュージカル				
				演劇				商業演劇				
				パフォーマンス				歌舞伎				
				寄席能・日本舞踊・文楽				歌				
				室内楽・ソロ				オーケストラ				
	ライブコンサート							ポピュラー音楽				
使い方の想定 (基本構想より)	公民館機能でカバー			市民活動の発表会			オペ・吹奏楽の演奏会				興行公演	
	ワークショップ			社会教育事業			近隣自治体ホールの利用				大阪・京都等へのアクセスが良好なためプロモーターニーズは低い	
	日常練習			小規模な発表会等								
				文化祭								
				成人式								
	アマチュアユース (地域の文化団体等)			主なホール利用者				プロユース (興行会社等)				
	参加・創造の場			ホールの位置づけ・性格				鑑賞の場				
	★京田辺市商工会館キララホール(180席・市内)											
	★秋篠音楽堂(306席・奈良市)											
	★文化パルク城陽ふれあいホール(324席～400席・城陽市)											
★京都市呉竹文化センター(600席・京都市)												

12

ホワイエの重ね使いの事例

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

- ・ 普段は、共用部のフリースペースとして利用可能
- ・ 文化ホールでの公演時には、共用部をカーテンで仕切ってホワイエとして利用



普段の状況（共用部のフリースペース）



ホワイエとしての利用状況（カーテンの向こう側）

13

公民館機能

これまでの検討状況（公民館機能）

	内容
多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模なコンサートや発表会等、幅広い利用に対応 ・ホール主舞台同等サイズを確保(ホール公演時のリハーサル利用を想定) ・共用部(ひろば機能)との一体利用が可能な配置・設え
会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・間仕切りによる規模の変更(20名以下での利用に適した部屋を複数確保) ・練習室やアトリエとして利用できる設え ・併設する行政機能の会議室としても利用
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽(生音・電気音響)・ダンス等の実演芸術 ・利用人数に対応した複数の部屋を設置
アトリエ	<ul style="list-style-type: none"> ・美術・工芸・陶芸・書道・生け花などの活動に対応 ・水の使用が可能な設え
調理室	<ul style="list-style-type: none"> ・調理台5台程度を設置 ・共用部(ひろば機能)や屋外空間との一体利用が可能な配置・設え
和室	<ul style="list-style-type: none"> ・茶室利用できる設備
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模な展示が簡易に可能なギャラリー ・共用部の壁面の一部を活用
郷土資料展示	<ul style="list-style-type: none"> ・共用部の一部で展示

15

検討事項（公民館機能）

多目的室の重ね使い

- ・文化ホールのリハーサル利用への対応のため、主舞台と同等規模
- ・練習利用の他、小規模なコンサートや発表会、ダンス、ギャラリー等、多様な利用を想定

会議室・創作活動室

- ・会議室は、利用人数に応じた部屋の分割
- ・視聴覚機材、防音設備、水回り、鏡・手摺り等、多様な文化活動に対応した設備
- ・創作活動室の会議室利用
- ・併設する行政機能の会議室や、自習・グループ学習への活用

ギャラリー・郷土資料展示

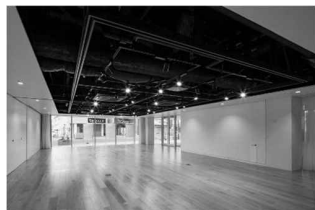
- ・多目的室での絵画や絵画等の展示
- ・共用部（ロビー）の一角や壁面を活用した展示

16

諸室兼用（重ね使い）のイメージ

須賀川市民交流センターtette

- ・貸室を「ルーム」と名付け、すべて会議室としての利用が可能。
- ・一部諸室には音響・映写機器が備わっていたり、展示パネルや流し台が設置されているなど、特性がある諸室もあり。



ルーム1-1:展示パネルあり



ルーム3-1



ルーム3-2:流し台あり



ルーム3-3



ルーム4-1:鏡・レッスンバ-あり



ルーム4-2:鏡・レッスンバ-あり



ルーム4-3:防音仕様あり



ルーム4-4:防音仕様あり



ルーム4-5:防音仕様あり



ルーム4-6:防音仕様あり



ルーム5-1

17

多目的室の重ね使いの事例

さいき城山桜ホール
小ホール 約138㎡



本番利用(小規模コンサート)



練習・ワークショップ利用

18

共用部分の壁面を活用したギャラリー（展示）

●諸室として区切られていない例 武蔵野プレイス ギャラリー 約90㎡



那覇文化芸術劇場なはーと 展示室 約34㎡



●共用部を活用した例 久居アルスプラザ ひさいアートストリート(壁面)



- ・共用部の壁面を展示貸出している
- ・平面沿いにピクチャーレールやライティングレールが設置

西神中央ホール なでしこ芸術文化センター アートウォール(壁面)

アートウォール全体図



アートウォール利用料金（税込）

① ルーム1横

奥行230～280mm

※利用料金は利用面積に応じて算出されます。

※：2,000円（40を含む）

※：2,000円（40を含まず）

※：3,000円（11,17,23,39,45を含む）

※：3,000円

※：利用料金は

飛行機 230~250mm										<input type="checkbox"/> 2,500円 (46巻含む) <input type="checkbox"/> 3,000円 (11.17.23.3) <input type="checkbox"/> 3,500円 <input type="checkbox"/> 照明付き	
1	9	15			33		39	43			
2	10	16	21	27	34			40	44		
3	11	17	22	28							
4			23	29	35			41	45		
5	12	18	24	30	36						
6	13	19	25	31				42	47		
7											
8	14	20	26	32	38				48		

これまでの検討状況（図書館機能）

	内容	
収容可能蔵書数	28万冊	
開架書庫	16.8万冊(蔵書数の60%)	
一般開架	ゆったりした空間	・ソファ等の閲覧席
	書架が並んだ空間	・書架のみ
	サービスカウンター、新聞・雑誌コーナー、 ※ボランティア活動支援室は公民館機能の会議室を兼用	
児童開架	児童書スペース	低層書架、児童用閲覧席
	お話しコーナー	・読み聞かせやお話し会の会場 (靴を脱いで利用できるオープンスペース)
	児童カウンター、こども用トイレ・授乳室	
閉架書庫	11.2万冊(蔵書数の40%)	
事務・管理	事務室・作業室、スタッフルーム・更衣室、倉庫、移動図書館車庫 等 ※会議室は公民館機能の会議室を兼用	
返却ブックポスト	閉館時間に返却できるポスト	
自習室等	自習室・グループ学習スペース・コワーキングスペース	

21

検討事項（図書館機能）

蔵書数

将来のピーク人口（令和12年：76,883人）を見据え、収容蔵書数を28万冊とする。

※現在の中央図書館の蔵書数は約24万冊

開架冊数

開架冊数を11.2万冊（開架率：40%）とする。

※現在の中央図書館の開架冊数は約8万冊（開架率：33%）

一般開架7.2万冊（現状5.5万冊）、児童開架4万冊（現状2.5万冊）

自習室等

専用スペースとした場合、季節や時間による利用率の変動が大きいいため、公民館機能の会議室の「重ね使い」や共用部（ひろば機能）を活用

共用機能

23

共用機能（ひろば機能）の検討事項

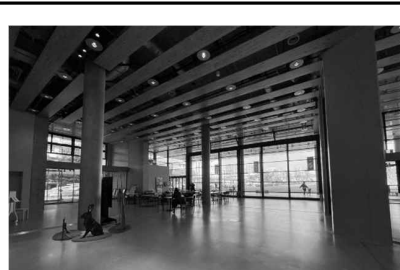
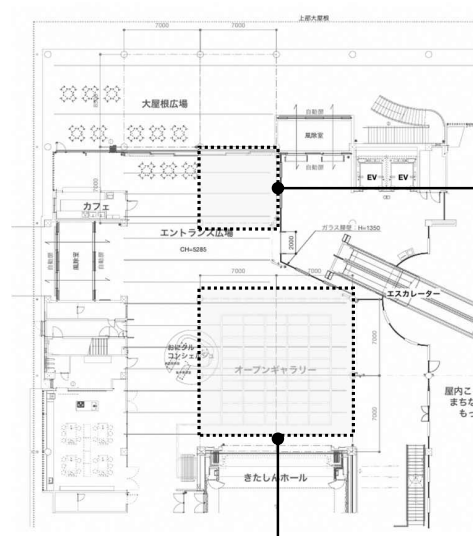
	内容
エントランスビ 共用部	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地がよく、誰もが訪れやすい開かれたスペース ・さまざまな形態の机やいす・ソファ等配置し、施設のいたるところが“居場所”となる
	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や機能をあえて設定しない新たな文化スペース ・ジャンルに限定されない多彩な活動・事業ができる場 ・絵画や写真、郷土資料などの展示、コンサートなどの事業のスペースとして活用され、新たな文化への出会いや発見の場となる ・自習やコワーキングエリアとしても活用
	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの食文化を体験・発見できる軽飲食スペース ・フリースペースすべてが客席となり、どこでも飲食可能なスペースとする
屋外広場	<ul style="list-style-type: none"> ・日常は市民の憩いの場 ・イベント開催時は賑わい創出の場 ・芝生空間、屋根付きの空間(半屋外空間)、野外ステージ ・こどもの遊び場となるような空間づくり ・屋内共用部と屋内外一体となって使える配置 ・隣接する公園と一体となった空間

24

施設イメージ フリースペース

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

エントランス広場 約50m²/オープンギャラリー 約200m²



エントランス広場

交流ホワイエ 約50m²



屋上広場 約100m²



共用部を1区画あたり49m²として貸出しており、様々な市民企画等で利用が可能。ただし、共用空間を使うという前提であり、施設の「市民活動コーディネーター」と、都度使い方に関するルールを検討する。

25

施設イメージ フリースペース

桜川市生涯学習センター さくらす クリエイティブハブ



さくらす
クリエイティブハブ



工作、料理教室、撮影、講座など多目的に使えるスペース。
自由参加のイベントも実施。



須賀川市民交流センター tette でんぜんホール 約100m²



エントランス脇のフリースペース。マルシェや演奏会、ワークショップ等のイベントで使用する他、日常的にはテーブル・椅子が並べられ、自由に過ごせる空間となっている。

26

施設イメージ 屋外ひろば



茨木市文化・子育て複合施設 おにクル
屋外ひろばの日常の風景



茨木市文化・子育て複合施設 おにクル
屋内外で一体的に催された開館一周年記念イベント



堺市民芸術文化ホール フェニーチェ堺
隣接する都市公園と一体で催されたクリスマスイベント



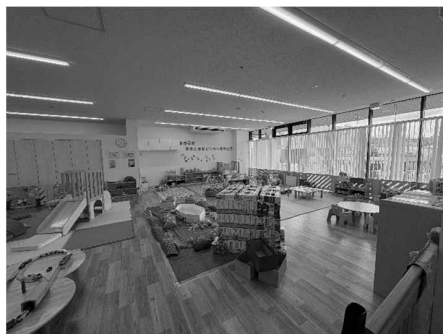
平群町総合文化センター
屋外ひろばでの市民によるマルシェ

27

併設機能・管理機能

併設機能（行政機能）の検討事項

機能	内容
こども支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が文化活動に参加しやすい環境づくりを行う ・子育て支援拠点、多目的ルーム(はぐはぐルーム)、一時預かり、相談機能、事務局機能を設ける
市民交流促進機能	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動の市民活動やまちづくりへの展開を図る(市民活動、男女共同参画 等) ・事務局機能と相談機能を設ける <p>※会議や諸活動は公民館機能の会議室等や共用部(ひろば)を活用</p>
避難所機能	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害時の帰宅困難者対策や垂直避難対策として活用



子地域育て支援センター松井山手
約100㎡



はぐはぐルーム松井山手
プレ療養教室・多目的ルーム
約100㎡



茨木市文化・子育て複合施設 おにクル
市民活動センター きゃぱす

29

管理機能の検討事項

諸室名	内容
運営事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール、公民館の運営拠点となる事務室 ※図書館の事務室は図書館内に別途設置 ・職員用更衣室やロッカーを併設 ・利用者打合せ用の会議室や応接室を設置 ・ホール舞台技術スタッフ用の控室を設置
その他	清掃員控室、守衛室 等

30